



滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52

TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

新年明けましておめでとうございます

本年もどうぞよろしく申し上げます 組合員一同



『明けましておめでとうございます』

理事長 中川 哲

(株式会社バルブ製作所 社長)

昨年は滋賀バルブ協同組合設立30周年という節目の年を迎えました。記念式典や祝賀会には多くの来賓にお越しいただき、組合員も多数参加し、盛大に執り行う事ができました。組合員の皆様と青年部の多大なご協力に厚く御礼を申し上げます。ただこれを単なる行事として終わらせるのではなく、30周年を機に新たに未来に向けた取り組みを行う事が重要ではないかと考えています。皆様のご支援とご協力を宜しく願います。

私たち滋賀バルブ協同組合の未来の一つに「ビワライト」があります。残念ながら国内ではまだまだ苦戦状態が続いています。是非組合員の皆様にも「ビワライト」を使った部品を多く採用いただき、また取引先を含む関係会社にもアピールをしていただきまして滋賀バルブの生んだ新合金「ビワライト」を未来に残していただければと思います。そして「ビワライト」の成功が「彦根バルブ」のイメージアップと躍進に繋がることを期待します。

時代は変化しています。いつまでも同じやり方、同じ商品に固執していると企業も陳腐化してきます。未来を見つめ、その視線の中に新しいものを取り入れていかないと時代の流れに後れを取り、取り返しのつかない事態を招くかもしれません。例えば配管機器の自動化が進んでいることは皆さん周知の事かと思いますが、将来的には配管自体がIoT化し、他の機器と連動しながら自ら考えて流量調整をするロボットのようなバルブができるかもしれません。

そのような変化に現状の組合メンバーだけで対応ができるでしょうか？我々には無い新しいDNAも必要なのではないでしょうか？

新たな技術を持ったメーカーや関連産業を積極的にこの地へ誘致することは将来に向けた重要な布石です。そのような企業をご紹介いただければ、行政の方々に誘致のお願いに参るつもりですので、ご協力をお願いいたします。

昨年の研修旅行はベトナムを訪問しました。JETROさんにも協力を頂き弊社のベトナム工場やフジキンさんの工場に加え現地の浄水場も見学しました。少々ハードなスケジュールではありましたが中身の濃い研修ができたのではと思っています。本年も海外研修を企画しています。今のところ時期は未定ですが、タイの現地鉄鋼バルブメーカーと日系のバルブメーカーを見学する予定です。中国からの調達が何かと難しくなっている中で、中国以外のメーカーからの調達も視野に入れて、ご参加いただければと考えています。

昨年の半ばくらいより世界的に景気の回復感が出てきています。我々バルブ業界は半導体関連等の一部の機種を除いてはまだまだ停滞感が拭えない状況ですが、一般景気からの運行性から考えると、今年からこそは上昇気流に乗れるのではと期待しています。

本年も理事長として誠心誠意頑張つてまいりたいと考えておりますので、宜しくお願いいたします。





滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52

TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

「年頭の」挨拶

副理事長 松尾 誠吉

(松尾バルブ工業(株) 社長)

皆様あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年十二月一日に滋賀バルブ協同組合設立三十周年事業を執り行わせて頂きました。私も七十歳を過ぎバルブの歴史と共に日々の重みを感じる今日この頃です。時代がどんどん進む中、昨今は世の中の変化も5倍速、10倍速というスピードで変化していることを痛感します。携帯電話はスマホに、家庭用のデジカメも同じくスマホに。公共交通機関の支払いもICOCAをはじめとした交通系電子マネーに。日常の買い物の支払いも同じく電子マネーという方も多いのではないかと思います。テレビにおきましてもビデオテープは今や過去の産物、録画はハードディスクに、例え見逃してしまってもビデオオンデマンドやティーバーなどの公

ベトナム視察研修を終えて

副理事長 濱口 浩一

(宮部鉄工(株) 社長)

謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年も変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

昨年十一月、組合設立三十周年の記念も兼ねたベトナムへの視察研修(参加者十四名)に参加しましたので、新年のご挨拶にかえてご報告したいと思います。

日の出前の寒い早朝に彦根を出発した私たちが、30度を超えるベトナム・ノイバイ空港に到着したのは現地時間の午後2時でした。専用バスに乗り込んでハノイ市内に入り、今回の

式無料サイトで見られてしまう非常に便利になりました。多くの方はアマゾンや楽天などによってネットで物を買われていると思います。さまざまな分野でイノベーションによる新しい価値の創造がなされました。

翻ってバルブ業界はと最近考えますと、門野留吉翁を始祖とする彦根の地のバルブ産業を担っている中、私は人々の生活になくてはならぬものであるというところから認識してまいりました。しかしながら、バルブは、生活になくはならないものであり、バルブがないと人々の生活が成り立たない。つまりバルブはこれからも残り続けるということを知らず知らずのうちに考えてしまい、心のどこかであまえが生じお客様に新たな価値を提供できているのかと感じます。

当社の品質方針の中に、「顧客に信頼され満足を提供する」という文言があります。しかしながら、本当に納期、品質、価格という最も基本的な部分においてきちんと意識がして取り組んでいるかというところが反省しないといけない点も多々ございました。

当たり前のことをいかにきちんとやっていくことの難しさはきつと永遠に変わらないものであると思いますが、今年は凡事徹底ということを抱負に、一年間頑張っていきたいと思っています。

宿泊先のインターコンチネンタルホテルへ。西湖のほとりにいくつもの客室棟が浮かぶ豪華なホテルでした。

荷ほどきもそこそこ、夕方からホテルの会議室にてJETROハノイ事務所職員の北嶋様からベトナムという国の概要と経済投資動

向について1時間あまりのご講演をいただきました。北嶋様は奥様がベトナム人というのにもあつて国情に通じておられ、その後の夕食会も含めて様々な質疑がなされました。

2日目は3件の工場見学をこなすという日程でしたが、全員昨日の疲れも見せず、しっかりと見学をさせていただきました。

1件目「昭和バルブベトナム」様は、中川理事長の会社が2013年に設立された現地法人で、多くの旋盤・自動機・塗装ブースが並び、小口径の仕切弁や逆止弁を中心に製造されている工場、現地の社長を務める中川良介様に詳しくご説明いただきました。

2件目「フジキン ベトナム」様(タンロン工業団地)・3件目「フジキン バクニン工場」(バクニン工業団地)は、それぞれ2004年、2015年に設立された(株)フジキン様の工場。タンロン工場は主として半導体製造装置用の精密バルブ・継手を生産する工場、従業員750名、100台以上の加工機械とレベル1000のクリーンルーム等で圧倒的な洗浄・研磨・検査部門を擁する大きな工場でした。バクニン工場も同様の設備があり、施設・敷地

も更に広いが、設立間もないこともあり、今後、バルブ製造以外の展開も視野に入れているとのことでした。このバクニン工場では、たまたま日本から同社の野島社長が来ておられ、応接室に招かれ、同社のベトナムでの事業について自らお話いただいたことに感謝しました。その後はハノイ市内に戻り、レストランでタンロン工場の金子社長とバクニン工場の川端社長をお迎えして夕食の会を開催しました。

実質的に最終日となる3日目、スーパースペースをバスに積み込んで、ハノイから45キロほど離れたハナムという地へ。日本という県庁に



㈱昭和バルブベトナム訪問



フジキン野島社長と面談バクニン工場にて



ハナム省副知事と中川理事長

私自身は初めてのベトナムで、現地通貨のあまりの交換レートの低さ(1ドン1000円)やラッシュ時の交通渋滞、高温多湿な気候などに戸惑いましたが、個人的には街の雰囲気は10数年前の中国に似ているような感想をもちました。もちろん基本的には社会主義体制の外国なので注意すべきこともたくさんあるものの、概ね真面目で勤勉な9500万人の国民が住み、英語も通じやすい親日国であり、すでに海外進出している企業も少ない企業も、今後の投資先としての優先順位の高さを実感した旅でした。

詳細日程

11月15日

関空→ハノイ

ジェットロよりブリーフィング

11月16日

(株)昭和バルブベトナム訪問視察

(株)フジキンタンロン工場訪問視察

(株)フジキンバクニン工場訪問視察

夕食会(工場視察先3名を囲み)

11月17日

ハナム省人民委員会訪問・交歓会

ハナム省浄水処理場視察

ハノイ市内視察

11月18日

飛行機6時間遅延(関空着12:30)



滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52

TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

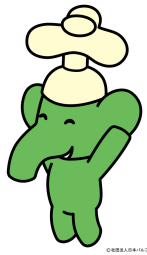
新春メッセー

(株) オーケーエム

代表取締役会長兼CEO 村井 米男

(日本バルブ工業会 理事 彦根支部長)

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年は、設立30周年を迎えられ、大変おめでたくお慶びの年でありました。今後も益々の発展を期待するものであります。日本バルブ工業会彦根支部におきましても、運用の見直し、組織改革の検討過程では、支部将来の進め方について皆様にも協議をいただき、ありがとうございました。滋賀バルブ協同組合様と共に彦根支部が協働していくことが必要不可欠であることを本部、各支部にも十分に御理解いただきましたことは、喜ばしいことでした。彦根支部は滋賀バルブ協同組合様と一体的な運営が最適との結論となり、今年度からは新しい道を歩み始める事ができました。今後とも滋賀バルブ協同組合様との共同事業運用の関係を緊密に維持していくことが重要でありますので、益々のご支援・鞭撻いただきますように宜しくお願い申し上げます。昨年は、大手企業の品質に関する問題が大きく報じられ、世界に日本品質の信頼感が落ちたのではないかと心配をしたところでありました。明治から連綿と続く彦根のバルブ品質を、永遠に揺るがないものにしなければならぬと思う次第です。また、人財難の市場下では、各社とも海外工場にも展開せざるを得ません。日本国内においても海外の優秀人材を招聘せざるを得ない状況が近づいてきており、弾力的な経営が、益々必要になります。女性社員の活用、高齢者雇用、新卒学生獲得、リタ育成をすすめる、誰もが働きやすく、やりがいを持つてもらうような施策にも多様性をもたすことが重要になってきております。滋賀バルブ協同組合様との



協業においては、人材育成事業や連携強化のためのスポーツ事業の拡大、海外視察による先端情報取得などの各種施策にアイデア、知恵を出す必要があります。この年の年が、わくわくさせる希望の年になります。すくことを祈念し、皆様のご多幸とご繁栄を心よりお祈り申し上げて、挨拶とさせていただきます。

『新年を迎えて』

(株)清水合金製作所 社長 和田正憲

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様には日頃よりお世話になり、厚く御礼申し上げます。

昨年は滋賀バルブ協同組合様の発足三十周年ということで盛大な記念式典がございました。折りしも弊社も創業七十周年を迎えることができました。これもひとえに皆様のお力添えによるものであり、感謝申し上げます。

さて、今年は戊戌（つちのえいぬ）にあたり、戌には「植物の成長が絶頂期にある」という意味、また戌には「草木が枯れる」という意味があると言われており、つまり今まで頑張ってきた方は、今年見事に花開き、頑張ってきた方々は現状維持または悪くなるということなのかもわかりません。

九星気学でいうと、『九紫火星』が支配する年になります。この『九紫火星』には、明と暗がはっきり分かれる、分岐点を迎えるなどといった意味があると言われています。過去の戊戌の年にあった出来事を調べてみると

一七七八年 アメリカ独立戦争

一八三八年 ニカラグア独立

一八九八年 キュリー夫妻がラジウム発見

一九五八年 東京通信工業がソニーに社名変更、関門トンネルが開通、現天皇陛下と皇后陛下の婚約発表などがあり、発見、発展、分岐点等を連想させるものが多いように思います。また、今年は三月に予定されているロシア大統領選挙をはじめ、メキシコ、ブラジルでも大統領選挙が行なわれます。国内では九月に自民党総裁選が行なわれます。これらは日本経済に少なからず影響を与えそうです。北朝鮮によるミサイル発射による国際的な緊張が増している点も気になるそうです。

このように予断を許さない状況のなか、我々社員一同、ライフラインの一翼を担う企業として

て、成果を出し社会的責任を果たしていかなければなりません。そのために『お客様に喜んでいただく』という基本に立ち返り取り組んで参りたいと存じます。

最後になりましたが、組合員皆様の益々のご隆盛とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

『謹賀新年』

(株)大和バルブ 社長 伊東 利一

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様には日頃からお世話になり厚く御礼申し上げます。昨年の4月に社長に就任いたしました間もなく1年を迎えますが、あつという間の一年でした。

さて建築設備業界は東京オリンピック需要、都心の再開発物件など案件名はいろいろ賑わっておりますが足元の動きはまだまだというのがこの三年間でした。人手不足などで工事が遅れたことなど種々の理由がありますが、建物の竣工は十九年にピークを迎えることになり、昨秋から少しずつ動きが出てきておりますが、いよいよ今年は出荷ペースでも動きが本格化してくるものと思われま。

一方これから繁忙期を迎えますが、長期化する景気拡大もオリンピックの後には景気後退を迎えることになるでしょう。私どもの業界は景気先行型産業ですので、緩やかなものになることを祈っております。オリンピック景気で眼をそらしていた少子高齢化問題、消費増税の影響など表面化する問題に向かい合っていくことになると思います。また政府の進める『働き方改革』も昨今の人手不足の中、人材確保に呼応して積極的に取り組んで参りたいと思っております。

昨年はAI（人工知能）が身近な生活でも話題に上がり注目されました。今後どんどんAIは生活に、企業活動にも取り入れられることになるでしょう。私も業界も同様のことだと思います。多種多様な変化に対応した製品、提案をしていかないと生き残れなくなると思っています。最後になりますが、今年の干支は戌ですが、相場の世界では戌年は『戌笑う』というそうです。私はとても気にいっております。今年は組合員の皆様と大いに笑える年になることを祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

(株) オーケーエム

代表取締役社長 奥村 恵一

2018年の年頭にあたり、滋賀バルブ協同組合の皆様は、気持ちも新たに新年を迎えられたことと思います。この2018年が皆様におかれましては輝かしき繁栄の一年でありますよう、お祈り申し上げます。

最近の上場企業のトレンドとして、2018年3月期の業績は、3年ぶりの増収になるとのことです。IT投資など、好調な海外需要を取り込む電機が牽引し、資源価格の上昇で商社も高い増収率となるようです。売上が押しあがる形で利益も伸び、純利益は2年連続で最高を更新されそうです。

今期の上場企業の業績好調な理由は、世界景気など外部環境の投資が後押しする面が大きいと思われま。その中で、製造業の設備投資が、2・3%増加するとのことで、リーマンショック前のレベルに戻り、我々バルブ業界にも恩恵の兆しが見えてきたものと思われま。

リーマンショック時に、バルブ業界の業績は、大きく下振れしてしまつた実績があります。しかし、このような下振れリスクを少しでも回避するには、常日頃より、マーケティングをして、繰り返し注文が入る仕組みをつくるのが非常に重要で。今後の飯の種である、IoTや、AIに目を向けざるを得ないでしょう。

滋賀バルブ協同組合設立30周年であった旧年に、当組合は、管工機材展やびわ湖環境ビジネスメッセ等に出席しました。中には、素晴らしい発想で、開発された新商品がありました。このような、アンテナショップを有効利用して、客先からの引き合いを募っていくことも非常に重要であります。

最後に、他の業界でも取り組まれているワークライフバランスを推進し、仕事と子育ての両立や、多様な労働条件の整備に取り組む、働きやすい職場環境を整えなければいけません。多様な、人材が安全に安心して働くことができるよう、就業にかかる制度を見直すことも求められます。

より安全、安心で、働きやすい職場を目指していくことが、10年後の40周年に向けて、魅力ある業界をつくっていく糧となるでしょう。



滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52

TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

新春メッセージ 青年部

滋賀バルブ協同組合 青年部

部長 小野 慎一
(廣瀬バルブ工業㈱ 社長)

皆様、あけましておめでとうございます。昨年は、滋賀バルブ協同組合の設立30周年の記念行事等もあり、とても忙しい一年であったかと思います。

また残念ながら昨年は、神戸製鋼所等の問題で日本の「ものづくり」の信頼性を揺るがす様なことが起きてしまいました。

私たち「ものづくり」企業の一員として存在しています。それぞれの企業は、一社だけでは成り立ちません。各企業が協力し合うことにより成り立っています。そして、「ものづくり」だけに限らず全ての事柄、個々の人間関係までもが、信用や信頼といったものによって成り立っているように思います。

今年は、公私共に信用や信頼を大切に一年にしたいと考えています。

また、世間一般的には景気が良いイメージですが、私も中小企業は全く実感が伴っていないような状況となっています。それどころか、人材不足・資材不足等のマイナスの影響ばかり受けているような気がしてなりません。

今年こそは、そういったマイナスの影響を吹き飛ばして名実ともに好景気が実感出来る年になることを願っております。

この2018年が皆様にとって良い年になりますように祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。

本年も宜しくお願ひ申し上げます。



本年も
よろしく
お願ひします

副部長 松尾 直樹

(松尾バルブ工業㈱ 専務)

新年あけましておめでとうございます。

最近、髪を切りに行った際「松尾さん、白髪が増えてきたね。」と言われ結構ショックを受けました。四十肩の痛みに悩まされ、両手首の関節も痛みます。心は二十代の半ばかと本気で思っていますが、三十八歳になった体は正直です。

しかしながら、単に体が衰えたのか、体のメンテナンスをしつかりしていないのかを考えた時に、若い時と比べて横着になってしまっている部分が多々あるなと思います。もともと学生時代は、野球やバトミントン、そしてサッカーにフットサルと常に体を動かしてきました。それぞれの部活やサークルの中でウォーミングアップやクールダウンなども入念に行い怪我は少なかったです。今は、体を動かすこと、そしてそのための準備をすることが不十分だと思っています。また、考え方についても学生時代や社会人になったばかりの時のような緊張感も薄れてしまっている自分に気づきます。

そういう意味で本年度は「初心にかえる」ということを意識していきたいと思っています。入社当初は、早く仕事を覚えたい、迷惑をかけたくないという必至な気持ちでメモを取ったり、復習したりしていました。ある程度年を重ねていく中で、「もう知っている」、「もう分かっている」という気持ちのどこかで生まれます。「初心にかえる」ということは、学ばず姿勢や準備する姿勢であり、それも単に学ぶのではなく、「謙虚に学ぶ」、「入念に準備する」ということを大事にしていきたいと思っています。それこそ学ぼうと意識すれば、幼稚園児や小学生から多くさん学ぶことができ、はっとさせられることも多いのではないかと思います。

また、「バルブ業界はこういう業界」という固定観念を持つてしまい、当社も時代にマッチしていない点が多くあります。昨年は、テレビや新聞などでも働き方改革という言葉がよく使われました。単に労働時間の短縮という点や生産性向上という点にスポットが当たりがちです。私自身も一部の大手企業の問題であって

我々に関係ないという意識を当初持っていました。しかし働き方改革を意識し実践することには良い会社づくりにつながり、地場産業の地位向上にも必ずつながると思います。設立三十周年を迎えた滋賀バルブ協同組合

30周年記念誌発行 「彦根バルブの歩み」 その1,2

設立30周年記念事業として「彦根バルブの歩み」その2を発行する事ができました。

平成二十四年七月に「彦根バルブの歩み変遷委員会」を立ち上げ、写真や資料の整備を進め、その後「設立30周年記念誌編集委員会」に引き継ぎ5年に亘る長い制作期間でしたが、皆様の協力により発行出来ました。この事に深く感謝申し上げます。



ここをクリック

『組合ビデオ』

記念式典で、ご披露しました「組合ビデオ」は、多くの方々に彦根バルブを紹介するため、組合員に協力いただき完成する事ができました。英語でも視聴できるようにしておりますので、是非活用して下さい。また、組合HPにYouTubeチャンネルをオープンしました。

『事務局より』

あけましておめでとうございます。組合員の皆様には、お健やかに新年を迎えの事とお慶び申し上げます。

ここに三十年新春特集号として5頁お届け致します。

今回は、組合設立30周年を迎えた記念すべき新春号として十三名の方から原稿を頂戴しました。皆さんが書かれているように、記念式典・祝賀会には多くの来賓、組合員に来ていただき盛大に執り行う事ができました。事務局も手探り状態から準備を仕掛け何とか当日に間に合せた状況でした。ご協力いただきました組合員の皆様、青年部の皆様に深く感謝申し上げます。

今年は、大正7年生まれの方が100歳を迎えられます。我々の業界も既に創業100年以上の企業や、あと数年で100年を迎える企業もあり、改めて業界の歴史の重みを感じるところです。

気持ちを新たに、業界の更なる発展のために、今年も事業を展開していきたく思いますので、引き続き皆様のご理解ご協力をお願い致します。

本年もよろしく
お願ひ申し上げます
事務局一同



滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52

TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

新春メッセーじ

角田鉄工 (株)

代表取締役 角田 孝幸

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、ツイッターでの喧嘩や過激な発言で話題の多いランプ氏が大統領に就任され、世界経済は米国を中心に拡大基調を維持し、株高が日本経済にも恩恵をもたらす形で景気も緩やかに回復の兆しが見えてくるようにも思われます。緊張が続いている北朝鮮問題や中国経済の減速など、我が国の政治経済にとって先行き不透明感が残ります。が、政権与党には引き続きアベノミクス成長戦略を継続し、安倍政権が掲げた政策が具体化されるよう経済成長への舵取りに期待したいところです。

我々のバルブ業界に目を向けますと、昨年は、滋賀バルブ協同組合も設立30年という節目の年でした。記念式典・祝賀会では、会員相互はもちろんです。が、来賓の皆様と過去の思い出話に花が咲き、貴重な時間を過ごさせて頂きました。私も青年部発足時から活動に参加させて頂いたことで、様々な組合事業を通じ、異業種も含めた諸先輩方から自分たちの経験談など、分け隔てなくご指導頂いたことで、彦根バルブのブランド力や、地域に根ざした当業界の魅力を感じさせて頂いたところでした。組合創立30年をひとつの通過点として、滋賀のバルブ業界の更なる発展を目指し、微力ながら少しでもお役に立てばと考えております。我々水道バルブ業界も厳しい状況が続いておりますが、本年もお客様からいただく声に全力で応えられるように、製品改良や新たな需要に対応できる製品開発に努め、初心を忘れず何事においても気持ちを前向きに、技術と品質向上に社員一丸となり取り組んでまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

2018年の抱負 『心を込める』

(株) ミヤジマ

社長 宮嶋 誠一郎

新年おめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。また組合設立30周年、誠にありがとうございます。

申し上げるまでもなく、弊社は祖父の時代に地元彦根のバルブ弁棒の鍛造から始まった会社です。そのおかげで今がある。そのことをあらためて感じさせて頂いた記念式典でした。この場をお借りし、心より感謝申し上げます。

さて、弊社の今年のスローガンは『心を込める』としました。

今の世の中は、考えられないほどのスピードと量で情報が飛び交っています。

知りたいことは何でもスマホで調べられる。パソコンを開けば山ほどメールが入ってくる。たしかに便利ではありますが、それらに溺れてしまっている面もあるのではないのでしょうか。

情報の「情」という字は「なさけ」と読みますが、「こころ」とも読みます。すなわち、「心を伝える(報じる)」ことが本来の「情報」の意味であると、元松下電器社長の谷井昭雄氏の本に書いてありました。

私たちは、時代の波の中で生きている以上、その波に乗ることはもちろん大切です。

しかし私は、この「心を伝える」ということこそが、これからの社会に大事なことだと思います。「ありがとう」「すみません」「さようなら」「これから日常の一言ひと言に心を込める。製品一つ一つにも心を込める。非効率と言われるかもしれませんが、小さなことを一つ一つ丁寧におこなう。そういう一年にしたいと思います。

本年も社員一同、どうかよろしくお願いいたします。

青年部メッセーじ

(株) 清水鐵工所

専務 清水 智弘

明けましておめでとうございます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年は滋賀バルブ協同組合創立30周年という節目を迎えることができましたこと、改めて関係各位にお礼申し上げますと共に、気持ちを新たに滋賀バルブ協同組合の発展に尽力することをお誓い申し上げます。創立30周年の事業では30周年記念誌編集委員会の一員として、「彦根バルブの歩みその2」の青年部の活動について主に担当させて頂きました。

青年部ではメンバーの研修のみならず、各社の新人、若手社員に対して実習や座学を開催し、バルブに関する基礎知識の向上などについても引き続き取り組んでいければと考えています。また、記念誌の中では組合の沿革だけでなく、会員各社の法人化等の履歴が掲載されており、130年に渡る「彦根バルブの歴史」を知ることができる貴重な資料となっておりますので、是非とも手に取って頂きたいと思っています。

弊社においても、60余年わたる歴史の中で今まで通りを変えることは非常に大変なことであるかもしれませんが、しかし急激な時代の変化の中で柔軟に対応していくため、今まで通りの当たり前から抜け出し、日々の業務ひとつひとつの意味を考えながら取り組んでいく姿勢が大切であると考えます。その小さな積み重ねが必ず大きな変化を与え更なる飛躍につながると信じています。

最後に、皆様の益々のご発展とご活躍をこころよりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせて頂きます。

「新年あけましておめでとうございます。」

清水工業 (株)

社長 清水 康裕

さて、国連が2015年に定めた「持続可能な開発目標 SDGs」をご存じでしょうか？



大阪管工機材商業協同組合青年部と交流会を開催

最近メディアでも良く取り上げられるようになりました。世界が持続開発可能な社会であり続ける為にこれから国際社会が向かうべき方向性を示した17の目標(ゴール)を設定したものです。とりわけNo.6「安全な水とトイレを世界中に」は、当社の事業意義そのものです。

世界は大きく変化を繰り返しています。日本も同様です。

これから日本は人口の大減少時代に突入します。

我々はそんな新しい時代、国際社会に対応した社会(会社)への変化が現在求められており、自社の「戦略」を決めるのではなく、自社の「役割」を決めることがより重要ではないかと感じています。

行動の一つ一つはその「役割」を軸に決めていくとうまくいく気がしています。

自社の事業活動が、社会でどんな役割を果たすのか？

その問いかけで仕事をする仲間・意志決定、行動や結果が変わると思います。

「持続可能な開発目標 SDGs」は、私自身や当社にとって重要な指針であり、道しるべになると信じて、本年も一歩一歩事業活動に取り組んでいきたいと思っています。本年もよろしくお願い致します。